



夢★きらめに

No.
3

加東市／加東市人権・同和教育研究協議会 平成19年3月1日



窪田集会所人権歌謡講座「はなみずき」講座生によるオープニング発表

目 次

- | | | | |
|------------------------|-------|---------------------|---------|
| ● 住民学習会…………… | 2 · 3 | ● 市民のつどい…………… | 8 · 9 |
| ● 集会所だより…………… | 4 | ● 男女共同参画社会の実現を目指して… | 10 · 11 |
| ● じんけんひろば・ポエム・新作ビデオ紹介… | 5 | ● 人権トピックス ……………… | 12 |
| ● まちづくりフェスティバル… | 6 · 7 | | |

二月十七日、やしろ国際
学習塾において、本年度の
住民学習の報告等をしてい
ただきました。

参加者は三百五十名で、
三人の報告者の発表を熱心
にお聞きいただきました。

合併初年度の本年は、旧
町の取り組みを引き継ぎな
がら、各地区において住民
学習を展開していきました。
その結果、さまざまな創
意工夫を凝らした取り組み
が各地で実践されました。
「夢がきらめく元気なま
ち 加東」を実現するため
にも住民みなさんによる「人
権尊重の理念に基づくまち
づくり」をこれからも推進
していきます。

二月十七日、やしろ国際
学習塾において、本年度の
住民学習の報告等をしてい
ただきました。

参加者は三百五十名で、
三人の報告者の発表を熱心
にお聞きいただきました。

合併初年度の本年は、旧
町の取り組みを引き継ぎな
がら、各地区において住民
学習を展開していきました。
その結果、さまざまな創
意工夫を凝らした取り組み
が各地で実践されました。
「夢がきらめく元気なま
ち 加東」を実現するため
にも住民みなさんによる「人
権尊重の理念に基づくまち
づくり」をこれからも推進
していきます。

**加東市人権・同和教育
研究協議会研修大会**

まなび愛 わから愛

本年度実施していただいた地区住民学習報告書より、参加者や社会教育推進委員等の感想を一部ご紹介いたします。

[社地区学習会より]

- ・学習会は続けていく必要がある。
 - ・準備が大切である。
 - ・同和地区はなくなつたが、同和問題はまだ残つてゐる。無関心になつてしまふことが最も危険なことで、そうならないためにも学習を積み重ねていく必要がある。
 - ・差別意識がないから人権学習をする必要はないというのではなく、正しい知識を学ぶ必要がある。
 - ・「こういう学習はいつまで続けるのか。」「何のためにしているのか。」という意見がある。
 - ・大人がもっと襟を正し、後から続くん人たちの手本となるように生活しなければいけない。
 - ・わが身のこととして考え、意見発表する人が多かつたが、いまだに

「寝た子を起こすな。」「今まで同和問題を含むビデオが作られるのか。」という意見も一部の人から出した。

【滝野地区交流学習会より】

考えさせられる勉強会でした。家庭で、みんなで話し合わねばと切に思います。

・初めて参加させていただきました。日常生活の中で、部落差別を考えることや、ふれる機会がなかったので勉強になりました。まだ、差

別がなくなつていないと知つて驚くこともありました。

格の違い等色々と心に残る言葉が多くて、でも結婚についても同和問題があるのは非常に残念に思いました。

・意見が多く出て有意義だったと思う。各人の思いや考えが聞けることは、幅広い考え方を育てること

・「時代と共に薄れるでしょう」の

・学習会もよいか　スボーツや祭りに多数の人が集まり、交流するのもいいのではないか。

・随分長い間交流学習会があるようですが、差別をなくするのはなか

なか難しいようだなあと聞かせて
いただきました。まず、今日きた

私自身から改め、私たちの年代の
者たちが間違いを正す時代なんだ

者たゞか間違いを正す時代なんだから」と思いました。

一步確信できる意見がなかつた。

・ビデオを見て「俺とお前の故郷を分けたりしない。ひとつだ」といふのが印象に残つた。

・差別する人、される人、お互い心の貧しい人だと思う。でも、人間として、自分はどうなのか、正直

スポーツ交流会



- ・「10年後の私に手紙」を書くことで、未来に向かって夢と希望が拓けたように思う。
- ・自分自身が強くなるために学習することが大切で、自分の意見をはつきり言える人になることが大切である。
- ・去年の推薦ビデオ「壁のないまち」に比べて、少しほどもから高齢者まで幅広い層の方が参加でき、交流を深めることができた。
- ・何か物事を実行するには苦労をしますが、それを成し遂げれば幸せになります。各地区のご苦労をお互い享受しあつてよりすばらしい地域にしていきたい。
- ・いじめられたり、差別をうけても、いじめたり、差別する側にならないという言葉に胸を打たれた。
- ・子どものために大人がよい見本をみせ、住みよい町になるよう心がけたい。私自身も若年世代との意見の違いを感じる。
- ・差別意識は親から子へ、子から孫へ確実に伝えられている。
- ・ハンセン病のビデオは、何でも受入れる小学生ぐらいから勉強させてやりたい。
- ・加東市誕生を機に「三世代が交流できる場」をと「ふれあいデー」を実施した。各種団体に声をかけ、みんなで企画、

10年後の私に手紙を書く(栄枝地区)



- 実施したことにより意義があつた。
- ・子どもの頃からこの地に育つた者と他地域から移つて来られた人たちとの交流をして、これから個人としても自治会としても交流していくきっかけになつたと思う。
- ・子どもから高齢者まで幅広い層の方が参加でき、交流を深めることができた。
- ・何か物事を実行するには苦労をしますが、それを成し遂げれば幸せになります。各地区のご苦労をお互い享受しあつてよりすばらしい地域にしていきたい。
- ・しかしながら、地区住民学習におきましては、97地区のうちほぼ全地区において、住民学習会を実施していただきました。
- 「私の好きなまち」を使つたビデオ学習、ふれあい交流を大切にした学習会、同和問題を核とした交流学習会、推進プロックでの学習会の実施など、三地区の実態にあわせた学習会の取り組みがなされました。
- そのような取り組みをしていただいた結果、「人と人とがつながり、きずなを深め、人権文化をまちいっぱいに」という目標に対し、確かに一步を刻むことができたと思います。
- しかしながら、参加者の方からのご意見やご感想としていた

だいています点としましては、次のようなものがあります。
例えば、

(1)他地区での人権学習の内容がわからぬ

(2)個人レベルの意識の問題と学習内容の行き詰まりをどうすべきか

(3)学習方法のマンネリ化を防ぐにはどうすればよいか

(4)参加者の固定化をどうするか等です。

このような課題については、近隣市町等でも同じように抱えているものもありますが、特に合併して浮上してきたものもあります。

皆さまのお声を真摯に受け止めながら、次年度においてはどのように実施していくのかを検討していきたいと考えています。

最後に、本年度一年間、色々とご依頼をし、ご協力をいただきました社会教育推進委員さんをはじめ、区長・自治会長様、各種団体の方がたに心より感謝を申しあげます。

加東市人権・同和教育
研究協議会事務局

一同

(理事会のお知らせ)

- ・加東市同教
- ・社地区人権・同和教育推進協議会
- ・滝野地区人権・同和教育推進協議会
- ・東条地区人権・同和教育推進協議会

3月 7日 (水)	13時30分～久米集会所
3月 14日 (水)	19時30分～社多目的研修館
3月 15日 (木)	19時30分～滝野公民館
3月 16日 (金)	19時30分～東条公民館

集会所だより

集会所では、人権問題講座を開設し、人権を視点において学習活動、体験活動を促進しています。

”交流の輪を加東市に広げていく“ことがねらいであります。どなたでも参加できます。

また、次年度の講座生の募集も3月中旬から行いますので、詳しくは集会所並びに加東市教育委員会人権教育課へ問い合わせください。



錢太鼓講座の発表の様子

むつみ学級による 兵庫県広域防災センター見学



地域の方とのスポーツ交流



兵庫県教育委員会では、人権文化創造活動支援事業を実施し、加東市においては7つの学級を開設しています。

次世代を担う子どもたちに、体験を通して人権課題を解決する力を養うのが目的です。

本年度も各学級がそれぞれに成果を発表して終了しました。

十二月十日、少し遠出のピクニックを兼ねて、岡山から赤穂方面を

巡ろうという計画で、岡山県の長島愛生園を訪問しました。

愛生園では、元患者のキムさんに、園内を案内していただきました。

親元から離されて初めて到着する島の桟橋。身体のチェックをされ、初めに何度も入れられる消毒薬の風呂。島から脱走しようとした者を入れる監房。引き取り手のないお骨が葬られている大きな納骨堂。ハンセン病療養所にあった当時唯一の高等学校・・・。キムさんの実体験を聞き、それぞれの場所に詰まつたたくさんの人の思いを感じながら、多くの場所を訪れました。

「ひつ予防法」は平成八年に廃止されましたが、それまでの間違った考えが生んだ差別や偏見はまだまだ解決したとはいえません。しかし、間違いときついた今、私たちに何ができるのか、考えていかなければならぬ重要な重大な問題なのではないでしょうか。

キムさんの詳しい案内と、学級生たちの熱心な学習で、時間を大幅にオーバーし、予定していた赤穂へのピクニックはなしになりましたが、非常に貴重な一日になりました。

訪問する前は、中学生にとっては、ハンセン病とそれに関わる人権問題について学ぶために療養所を訪問するといつても、難しそぎのではないかと私自身不安もありましたが、学級生たちは、難しい話にも耳を傾け、何かを学ぼう、吸収しようとする姿がありました。また、訪問後はハンセン病に関する本を読んで自ら学びを深める、そんな高い意識を持つ学級生たちに感心しました。

△長島愛生園を訪問して むつみ学級の活動報告△

加東市立社中学校 教諭 得 永 真 里

東条支部老人クラブ連合会幹部人権学習



じんけん ひろば

本年度も各種団体において、自主的な活動のもと人権学習会を実施していただきました。東条支部老人クラブ連合会では、幹部の人権研修として、「私の好きなまち」を視聴し、その後、グループに分かれて活発な話し合いが行われました。

また、この会を受けて、近隣地区でも合同人権学習会が実施され、身近な生活を振り返り、人権について考え、幸せな生き方の学び合いがなされました。

訓練の後にもかかわらず、宮野秀樹さんの「障害のある人の立場、目標にたつた地域づくり」について熱心に耳を傾けてくださいました。

また、消防職員の人権研修についても実施いたしました。コミュニケーションや、人と人との結びつきの大切さについて、参加型学習形式で学習しました。

活発な話し合いの様子



ボエム

自分の番 いのちのバトン

相田 みつを

父と母で一人

父と母の両親で四人

そのまた両親で八人

こうして数えてゆくと

十代前で、千二十四人

二十代前では一?

なんと、百万人を越すんです



過去無量の
いのちのバトンを
受けついで
いま、ここに
自分の番を生きている
それがあなたのいのちです
それがわたしのいのちです

新作ビデオ紹介

きいちゃん(2分)アニメーション



国語の教科書にも掲載された話です。主人公きいちゃんは、身体に障害があるでも、前向きにひたむきに生きています。

盲導犬クイールの一生(25分)アニメーション



いつしょにいるだけで気持ちを明るくしてくれる盲導犬クイールの一生を綴つたものです。映画化され、大きな話題となりました。

みんなで跳んだ(28分)アニメーション



城北中学2年1組の記録です。「先生、大縄跳びで矢部ちゃんをはずして跳ぶのはやつぱりいやなんですね。」この一言で、みんなは何か飛び越えます。

タ映えのみち(38分)



もし、わが子がインターネットを使って他の人の人権を侵したら、逆にわが子がその被害者になり「いじめ」にあつたら、「あなたならどうしますか。」と問い合わせる作品です。

人権と福祉のまちづくりフェスティバル

11月26日、「人権と福祉のまちづくりフェスティバル」が東条文化会館で開催されました。

講演に先立ち、東条少年少女合唱団の美しい歌声から始まり、手話サークルKOKOの手話劇「三匹のこぶた」、そして真屋さん高津さん夫妻の“ありのまま、そのままに生きる”講演が行われました。真屋さんの知名度が高いこともあって、たくさんの方々の参加を得ることができました。その一部をお知らせします。



東条少年少女合唱団のみなさん



東条手話サークルKOKOによる 手話劇「三匹のこぶた」

《真屋さんから》

「心の奥にきらきら輝いている神さまが超えられる苦しみを与えていた。あなたは超えられるから神が与えている。」と友達から言われた。だからいつも一つ、一つ勉強しながら生きている。この言葉と共に生きている。一生死ぬまで持っていくと話されたことが印象深かった。

《高津さんから》

二人のその日一日の体調がお互いの勘で分かるような夫婦の関係がいかに大切かということ。元通りに夫婦喧嘩ができるでしょうかね。言いあえる日が来るよう。

真屋が入院しているとき、男性の看護師が2、3名いた。チームを組んで夜も昼も担当してもらった。井上さんという男性の看護師でイチローに似ている。ある日、私がうたた寝をしていて気が付くと、真屋がナースコールしていた。看護師の井上さんが



真屋順子・高津住男夫妻

入ってきた。真屋が「おしめを換えてほしい」と、井上さんは「私でよければ、もし女性がよければ」と、真屋が「お願いします。」と言った。手際よく井上さんが取り換えてくれた。「失礼しました。」と言って出て行った。女優という肩書きを持つ真屋が・・・、思わず涙が出そうになった。大きな手には年齢も年も垣根がないことが分かったと話された。

《会場のみなさんから》

- ・真屋さん高津さんの二人三脚の思いが大切だと教えられた。今は二人とも元気なので、気付かないけど、心遣い、心がけ、大切だと思う。
- ・冒頭で「2000年から人権と福祉が生活の中心になりました」と言われたのが印象的だった。平素から人権福祉について考え方意識を持っていく必要があると感じた。
- ・お二人の自然な会話、打合せもしていないという前置きが有り、最初はびっくりしたが、それがあとでも聞きやすく、ゆったりと時間が過ぎて行き、いい1時間半でした。今日はいいご夫婦のお手本を見せていただいた。
- ・今日は良い話、興味のある話を聞いてよかったです。私も一つでも自然体に困った人に手をさしのべることが出来るよう味のある日々を遅れるよう頑張りたい。
- ・奥様を支えておられる高津さんの姿が自愛に満ちていてすばらしかった。
- ・生きていく中で、だれにもいつくしみ、優しく接していくことがとても難しいと思った。傷ついてどん底を知った人の強さ謙虚さを知った。いい話が聞けて人間のすばらしさを見せてもらった。
- ・車イスの視点から見られた真屋さんの優しい心が胸にしました。
- ・どんな時もやさしい思いやりを忘れない人間でいたい。
- ・二人の楽しい話に感動した。普通の生活の大切さにも気付かせてもらい大変良かった。
- ・人権と福祉には垣根がないという言葉を深く心に持って、私も歩んでいきたい。
- ・手話サークルKOKOの実践発表に拍手を送りたい。



人権擁護委員さんによる啓發活動

- ・障害がないものは何も感じないが、聴覚障害者について理解することの大切さに気付かされた。少し手話を習ったので、理解することができた。
- ・手話は優しい手、手話って良いもんだと思った。
- ・澄みきった美しい歌声を聞き、手話劇を見て手話の大切さを考えさせられた。老いの人生を二人 寄りそって仲よく歩んでいきたい。

人権を考える市民のつどい

12月16日、「人権を考える市民のつどい」が滝野文化会館で開催されました。

初めに市内の中学生4人がそれぞれ人権作文を発表しました。その後、歌手で篤志面接委員の千葉絃子さんに「今、問われる大切なものの～子どもたちからのメッセージ」と題して講演をしていただきました。



社中学校
2年 黒田飛鳥さん
「戦争の残骸」



兵教大附属中学校
3年 時政里紗さん
「GOD BLESS YOU」



東条中学校
3年 坂辻千明さん
「『思いやる』ことの大切さ」



滝野中学校
2年 西山陽介さん
「人権を守る大切さ」

《会場のみなさんから》

- ・中学生の弁論が、とても前向きでさわやかで気持ちよかったです。いい生徒たちが育っているこの地域と中学校の素晴らしいしさを感じた。
- ・面接委員でもある千葉さんは子供たちに向かう時、自分自身をまっさらにして、人を変えようとは思わず、自分が変わろうとする気持ちを持たなくてはいけない。華々しい世界の人だと思っていたが、地味だけれども大切な仕事をされており、よい学習をさせてもらった。
- ・子どものメッセージを受け止めるのは、まずは家庭。愛する側になれるよう努力したい。
- ・子ども達の暗い事件が多い中、自分の考えをしっかり持った中学生も育っているんだと思うと嬉しくなった。このまますばらしい大人に成長してほしい。子どもにたくさん声を掛けてあげようと思う。
- ・「愛されたい側」から「愛する側」へ。「あなたのメッセージ」から「わたしメッセージ」へ。人間力が問われる。子どもは親に愛されたい、親の期待に応えたいと思っている。多くのメッセージをいただいた。

《講演の中から》

色々な場面で子どもの話を聴いてあげる時、大人のものさしで持って早々に結論を出さないこと。こうじゃないの、こうしなさいというように。大人のものさしは子どもにはよく見えている。まずは自分（大人）が変わることから始まる。親業という本の中に思春期の子どもたちと向き合うヒン

トがあった。あなたメッセージで話すよりも私メッセージで話してはどうか。あなたはこうで、あなたはこうだからというよりも、私はこう思うけれどどうだろう、私はこう考えているのだけれど。その子どもが私たちにそんなさびしい思いをさせたのかっていうことを知ってもらうことが大事。それでこの手法を取り入れて話を聴いている。非行に走った子どもたちはどこかで聞いてほしいと願っている。聞いてもらった分だけ軽くなる。

非行は本人の環境と、本人の資質によるところが大きい。子どもは誰も親の望むような子になりたいと思っている。だからこそ親の期待に応えられなかつたとき、自分の評価をだんだん下げていってしまう。「そうじゃないよ、君のすばらしいところはいっぱいあるよ」と、「今回はこんな結果になったけど次にがんばればいいんだよ」といろんな言葉で子どもを救ってあげれば、自分の全人格を否定されたのではないんだと、子どもはまた意欲がわいてくる。それが親の期待に応えられなかつたことだけが先行すると、子どもは不安と自己否定型になり自己評価が低くなる。子どもというのは愛されたいという種族である。愛されたいばかりの子どもたちには不満が多い。自己評価が低い人たちを育てないためにはどうすれば良いのか。大人の誰かの庇護の下に愛されて生きるということが一番大事になってくる。子どものうちは愛される側で十分である。大人になることはどういうことかというと、愛する側に回っていくことではないか。日本人は愛の欲求が強い人種だと書いた人がいる。愛されたい人が多い。夫が妻に権威を振るっているのは実は、夫が妻に愛されたい表現の1つだと、一方、妻も夫に愛されたいと思っている。そこを愛する側に回ることで随分と人間関係がギクシャクしないで済むようになるのではないか。このように考えると人権も、愛する側に回ったときに達成されるものがいっぱいあるのではないか。人を思う愛する側の考え方を定着させてゆけば、人権を守る大きな要素になると思う。「愛する側で歩いて行けるかどうか、一生かかって歩いていきたい。」と話された。



男女共同参画社会の実現をめざして

～男女共同参画で“協働のまちづくり～

比較的若い世代では男女共同参画意識が着実に根付きつつありますが、定年を迎える世代、まもなく定年を迎える「団塊の世代」では男女の固定的な役割分担意識が長い間にできてしまっています。夫が外で働いている間、妻は家事・育児・介護をし、その合間にPTA・パート・地域活動をしています。この生活体験の相違は、お互いの感性や意識を引き離し、共通の話題や時には会話する気力を失ってしまうことがあります。

無言無視ではコミュニケーションはできません。お互いに心の内の思いを言葉にして言いたいことが言え、普段の生活を通して相手を知り、思いやることが大切です。

第三回 男女共同参画セミナー（11/18）



自分らしく いきいきと
～男女共同参画社会をめぐって

神戸山手大学教授 後藤安子さん

(講演会から一部抜粋)

今、日本の社会は少子化・超高齢化に向けて急速に進行している。予測によると、2015年には4人に1人、2040年には3人に1人が65歳以上の高齢者になるとされており、今後の労働人口の減少、あわせて税金や年金などの行方が懸念されている。2006年より人口減少が始まっている。少子高齢化に伴う経済活力の減衰の他、地域の生活機能を維持する営みにおいて様々な問題が起こりつつある。このような変化に対応する為には、社会生活と私生活の両面にわたり、性別に関係なく、一人ひとりの個性や能力を十分に発揮できる社会の実現が不可欠となっている。

1999年6月の通常国会において「男女共同参画社会基本法」が制定され、施行された。男女がお互いに認めあい、尊重しあう社会、つまり「男女共同参画社会」の実現が目標とされている。兵庫県においては2002年4月より「男女共同参画社会づくり条例」が施行されており、県内のいくつかの市においても既に条例が制定されている。

戦後「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識にもとづく、半ば強制された行動によって、

日本の経済発展が急速に実現されたとは言えるが、今や、近い将来に予測されている少子高齢社会に向けて、男女が性別にとらわれずに自らの選択によって考え方行動することができる体制が必要とされる。

男女共同参画社会とは、男女がお互いに認め合い尊重しあう社会、男女が地域や社会に積極的に参画する社会、男女が仕事も家庭もともに担う社会である。職場においては、女性も男性も能力と個性を十分に發揮できる職場環境を創っていくことが必要であり、不合理な職場での性別役割分担をなくし、働く意欲を高めていかなければならない。これからは、出産や子育ての為に一旦退職した女性が希望すれば再就職できる社会、つまり女性が再チャレンジしやすい社会が求められる。

男性にとっても、仕事中心の生活や価値観は、仕事以外の生きがいを見つけにくくしたり、生活面での自立を困難にしたり、多様な生き方の選択を狭めてきている。今、男性においても自分しさを求める動きが出てきている。生活面での「男の自立」を語り合い、豊かで意義ある生き方につなげようとしている。家庭のことを女性だけの役割にせずに、男性も家事・育児・介護にかかわることが必要である。



男女共同参画と少子化対策は車の両輪とされる。(平成18年版 男女共同参画白書) 日本など先進諸国が少子化に悩む一方、フランスでは合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子供の数に近い推計値）を2.005人まで上昇させている。1994年に1.65人まで下がりながらの回復である。国や企業がともに育児支援制度を設けている効果である。「女性は家庭」という性別役割分担意識ではなく、仕事も家庭も両立できる女性が評価されるにいたっている。（読売新聞掲載）

内閣府の男女共同参画局によれば、とくに女性が活躍できる道をより開いていくことが社会の活力につながるとしている。

金子みすゞの詩に“みんなちがってみんないい”ということばがある。男は“男らしく”女は“女らしく”という、いわゆる従来の性別役割分担にとらわれた、画一的な社会ではなく、各人の個性や能力が活かされる社会が今後望ましい社会の姿であろう。

近年さまざまな家族形態が生じる中で、男女の人権が尊重され、社会の一員として自立し、安定した社会生活を送ることが基本である。今こそ男女が互いに思いやり、あわせて自分らしく、いきいきと生きる社会が求められているといえよう。

人権トピック

人権パンフレットが完成!!

ちよつと一言

加東市教育委員会では、住民学習や各種団体の人権研修や人権学習会で使用できる「みんなの願いがかなうまちに」を作成しました。



いっしょいわか いちどいちろう
「一笑一笑」「一怒一老」
「笑」で生きる喜びを

年をとると口角が下がる。いわゆるへの字の口になる。一見、不機嫌そうな表情になり、怒ってはいないのだが、近寄りがたさをかもし出してしまった。

笑う回数が確かに減ってきた。仕事が忙しくなつて、ストレスがたまる。外出、家事がおつかうになつてくる。

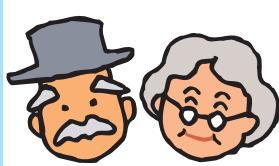
「今週は、何で笑つたかなあ。」と考えてみる。

最近、病院でも「笑いによる治療」というのを始めているらしい。高血圧や糖尿病の治療に成果を上げているという。

世の中のこと、子どものこと、自分のこと、家庭のこと、仕事のこと…。腹立つことが多い今日このごろですが、ちょっとばかり口角を上げて、笑つてみよう。

うまいことを言う人がいた。

「笑う門には福来たる」ならぬ、「笑う顔には福来たる」だと。



(Y・D)

内容は、わたしたちが暮らすまちの様子をとりあげ、気づきチェックができるようになっています。

また、人権課題をとりあげ、「気づきのポイント」「わたしのできること」を確認できるようになっています。

保育園や幼稚園、小学生、中学生にも使え、家庭内でもコミュニケーションをとりながら、楽しく人権意識を高めることができます。

是非、来年度の人権学習、人権研修会でお使いください。

☆編集後記☆

今年の冬は、本当に暖冬で、雪の心配もせずに春を迎えるのかなあと期待しています。
「夢☆さらめいて」も3号となりました。

内容を充実させるためにも、来年度は、市民のみなさんの声を反映したものにしたいと考えています。編集ボランティアや、お便りコーナーへの原稿を募集しますのでよろしくお願いします。

また、人権を尊重した地域での活動や人権に視点をおいた催し等を実施しておられる所への取材も考えていますので、また情報等をおよせください。

合併して一年。少しづつ新しい加東市の形が見えてきています。戸惑いもありますが、この加東市をどんな色にしていくかは、やはり住民のみなさんの力、いわゆる「マンパワー」です。

幼児から高齢者の方まで、だれもが安心して安全に、そして豊かに暮らせる地域づくりのために、しなければならないことを考えていただきたいと思います。

発行

加東市
加東市人権・同和教育研究協議会

〒679-0292
兵庫県加東市下滝野1-2669-2

TEL 0795-48-335583

FAX 0795-48-33705
TEL 0795-48-335525